

模範愛育班の指定

愛育班を普及し、その活動を充実させるため、次の条件により模範的な愛育班を「模範愛育班」として指定し、見学実習の場とします。

1. 愛育班組織が確立し、その活動が他の模範となるものであること。
2. 愛育班活動の見学実習地として、本会が行う研修会の研修生又は他市町村の愛育班関係者を受け入れることができること。

2019年度は下記の愛育班を指定します。

埼玉県入間市母子愛育会
山梨県愛育連合会

「愛育班員の手記」入選作一覧

優秀作

県 名	氏 名	所 属	タイトル
埼玉県	むらた あさこ 村田 朝子	ときがわ町愛育班	埼玉県支部の心を一つにして 「岡山県支部がんばって！」

佳 作

県 名	氏 名	所 属	タイトル
兵庫県	やまなか あきこ 山中 明子	たんばし とおざか 丹波市愛育会遠阪愛育班	これからも続けたい地域の方との 愛育班活動
香川県	まつうら ようこ 松浦 陽子	東かがわ市母子愛育会	育児サークルのびのびとの出会い ～音楽を通した愛育会活動まで
大分県	いのうえ としこ 井上 登志子	竹田市竹田地区愛育保健 推進委員会	愛育班とともに歴史を拓いて、 早や10年

手記 優秀作

埼玉県支部の心を一つにして 「岡山県支部がんばって！」

埼玉県 ときがわ町愛育班

村田 朝子



平成30年7月豪雨被害の様子が次々にニュースで流れ、心配でドキドキして見ていました。画像の中に岡山県倉敷市真備町もあり、愛育班員全国大会で一緒した支部長さんの顔が浮かびました。岡山県は、全市町村に愛育班があり、大変印象深い県でもあります。「愛育のみなさんは大丈夫かしら」、「妊婦さんや子ども達、高齢者や身体の不自由な方々、どうされているのかしら」と、ただただ、ご無事を祈るだけでした。

埼玉県支部理事会で岡山県の復興支援に何かお手伝いできるか話し合い、全員一致で義援金と決定しました。県内の愛育班員を対象として、31市町の会長に義援金のお願いをしました。班員からは、声かけ訪問をしているご近所の方が「愛育班にはいつもお世話になっているからぜひ協力させて」と募金を申し出られましたが、「今回は、愛育班員から愛育班への義援金なので」と丁重にお断りしたというエピソードも聞きました。義援金は次々と届き、第50回大会の愛育班員未来メッセージにありました“1人の愛育班員の力はささやかでも、みんなが集まれば、愛育の愛は、不可能を可能にしていきます。”を実感しました。班員の皆さんに「ありがとう」と、胸が熱くなりました。

埼玉県支部の心が一つになった義援金36万円余りを「岡山県支部がんばって!」の気持ちと共にお届けしました。岡山県支部長や岡山県庁保健師の皆さんから「ご支援と温かい心をいただき元気づけられました」「バラバラになったコミュニティの復興に使わせていただきます」とお礼の言葉をいただきました。

現場にお手伝いにはいけませんでした、愛育のお仲間のお役にたつことができ、愛育班員は自分自身に「愛育のこころ」を感じ、大変嬉しくなったようです。今も復興に尽力されている愛育会の皆様とともに、全国の愛育班員の横の絆も大切にして、愛育のこころをつないでまいりたいと思っています。

手記 佳作

これからも続けたい地域の方との愛育班活動

兵庫県 丹波市愛育会遠阪愛育班

山中 明子



愛育班活動をはじめて16年になります。日々の活動では、近隣の人達に「お元気ですか？」と声をかけ、ひきこもりにならない様に話しをするようにしています。すると、相手の方の健康状態がわかったり、今困っている悩み事を聞くことができます。通学中の学生さんへの挨拶や小学校の子ども達への絵本の読み聞かせでは、元気な子ども達の反応から、私も元気をもらっています。

地区のサロンで「ぼたもちパーティ」を開き、出席の方々が「ぼたもち美味しかった」と喜んでくださると「活動していて良かったなあ」と感じます。

「ひょうご愛育の集い」に参加すると各地区の愛育班員との交流が広がり、人との繋がり的重要性を実感するとともに活動の視野が広がります。朗読ボランティアでは、丹波市広報等をCDに録音して毎月お届けし、視覚障害のある方々との交流会も開催し親睦を深めています。これら全ての活動は、愛育班活動が根本にあります。

11月、氷上保健センターと協働で「丹波の恵みをいかした食育」をテーマに、丹波の食材がたっぷり入った「ちーたん[※]おにぎり」と「味噌汁」を作る親子調理実習を行いました。この日、恩賜財団母子愛育会総裁の秋篠宮紀子妃殿下が訪問されました。参加の子ども一人一人に語りかけ、お母さんを温かく気遣うお姿に接することができました。本当に嬉しく、沢山の学びがありました。“愛育班活動”を大切に思ってくださいのお気持ちを感じ、“愛育班活動をなくしてはならない”という思いが、感動とともに強く沸きあがってきました。

愛育班活動を続けられるのは、家族の理解と協力のおかげと感謝しながら、自らの体調管理に努め、各種行事に積極的に参加することを心掛けています。これからも人との出会いを大切にしながら学習し、健康で、地域の方と共に愛育班活動を続けていきたいと思っています。

(※丹波市で恐竜化石が発見され誕生したマスコットキャラクター)

手記 佳作

育児サークルのびのびとの出会い ～音楽を通した愛育会活動まで

香川県 東かがわ市母子愛育会
松浦 陽子



私が育児サークルのびのびを初めて知ったのは、今から10年前のこと。結婚・出産を機に主人の故郷である東かがわ市に住み、第一子の4ヶ月健診で母子愛育会の方からおめでとうスプーンの配布と共に頂いたチラシで知りました。育児サークルのびのびの会場は広い畳の部屋で、たくさんの親子が遊んだり、育児情報の交換をしたりと、とても有意義な時間を毎週過ごしていました。第二子を出産してからも、二人の子供を連れて遊びに行っては、2時間思いっきり楽しんでいました。そんな時保健師の方から、「お子さんと一緒にいいので、のびのびの活動のお手伝いをしていただけますか？」と声をかけて頂きました。「毎週子供と来ているので、いいですよ！」とお返しし、年数回ですがお手伝いをさせて頂いていました。二人の子供も幼稚園に入園して、子供と一緒に参加することはなくなりましたが、私がしている仕事を生かして、イベントの一つであるクリスマス会で音楽活動をしてほしいと依頼を頂きました。第三子を出産してからは、再び子供と一緒に遊ぶ時間であったり、お手伝いする時間だったり、クリスマス会で音楽活動をさせて頂く時間と、母子愛育会活動は私の生活の中に大きな存在となっています。

平成30年度から、東かがわ市母子愛育会の会長をさせて頂くと共に、音楽活動を行事の中に入れて頂き、たくさんの親子と一緒に音楽を通して、楽しませて頂いています。音楽に合わせて楽器や布を使ったり、わらべうたに合わせて親子のスキンシップを取ったり、子供が自由に感じるままに体を動かし、笑顔あふれる時間を過ごしています。仕事をしているお母さんが増えていますが、子供にとってお母さんと一緒に過ごせる時間はかけがえのないもの。そんな大切な時間を育児サークルのびのびに来てよかったと思える活動を続けていけたらと思っています。

手記 佳作

愛育班とともに歴史を拓いて、早や 10 年

大分県 竹田市竹田地区愛育保健推進員会

井上 登志子



竹田市は、平成17年の市町村合併を機に従来2町で行っていた愛育班と1市1町で行っていた保健推進員を一本化し、名称を愛育保健推進員として新たにスタートしました。この愛育班の活動に足を踏み入れて10年、今では市内全域の活動へと成長しています。

私は、平成25年に竹田市の会長を引き受け、当初は責務の重さと期待の大きさを感じながらも、戸惑いと焦りの日々でした。そのような中、支えあった班員の皆さんやアドバイスをくれた保健師さんたちへは感謝の気持ちでいっぱいです。

高齢化率45%の竹田市だからこそ知恵をしぼって、住み慣れたこの地で住み続けることができることを願い、健康の重要さを伝えたくて地域の人たちみんなに「必ず健診を受けに行ってくださいね」と声かけをしながら、健診キットを配って歩きます。何度声かけしても知らん顔していた人が、健診を受けに来ている姿を見ると嬉しくて胸が熱くなり、この活動を続けていてよかったと思います。竹田市の健診受診率が高いのは愛育保健推進員の声かけがあるからだと思っています。

その後、平成28年に愛育会長OB会が誕生し、活動歴20年の先輩会長OBの「愛育班の活動をもっと地域の人たちに知ってもらいたい」という声をきっかけに、平成29年にOB会で「竹田市愛育だより」を発行することにしました。このたよりに各地域の特色を生かした集いや交流会などの活動載せることで、他の地域の活動に興味湧き、他地区の活動の見学や交流会ができるようになり、刺激を受けた班員のやる気も生まれ、健康づくりだけでなく地域づくりへと輪が広がってきています。恵まれた自然と温かなつながりのあるこの地域で、みんなが身も心も豊かな時間を過ごせるよう、愛育班活動の存在意義の大きさを伝えていきたいと思っています。

～をさな児を「えらいネ」と褒む午後の街未来へ向かふ確かな歩み～